

## 2026年3月期第1四半期の事業の進捗及び業績について

当第1四半期累計期間の事業の進捗及び業績の概要は、以下のとおりです。

### 1. 事業の進捗

#### 1) 創薬

##### (1) パイプライン

開発コード	対象疾患	進捗状況
PPMX-T003	真性多血症	国内で実施した第I相試験は2024年6月に終了しました。現在、早期の導出に向けて活動を継続しております。
	アグレッシブ NK細胞 白血病	①AMED <sup>1</sup> の令和7年度「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」に採択されました。  ②医師主導第I/II相試験は、被験者登録を加速するために治験実施施設を7か所から9か所へと2施設（都立駒込病院、名古屋大学病院）を追加して実施しております。
	その他	①血管リモデリングに対する基礎的検討結果に関する兵庫医科大学との共著論文が発表されました。  ②鉄による細胞周期調節の改訂モデルに関する大阪大学 柳谷稜先生の論文が発表されました。
PPMX-T002	固形がん	①放射性同位体標識抗体。放射性同位体をイットリウム90 ( <sup>90</sup> Y) からアクチニウム225 ( <sup>225</sup> Ac) に変更し、新たな放射性同位体標識抗体医薬品として開発中です。 <sup>225</sup> Ac-PPMX-T002の前臨床評価について、第41回日本DDS学会学術集會にて発表しました。  ②放射性医薬品開発会社を中心に早期の導出に向けて活動を継続しております。
PPMX-T004	固形がん	ADC <sup>2</sup> 。抗体に結合させる薬物及びリンカー等の最適な組み合わせを見出しマウスによる実験で高い抗腫瘍効果を認めました。これを受けて予備毒性試験を実施しております。

<sup>1</sup> AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（Japan Agency for Medical Research and Development）の略称。医療分野の研究開発およびその環境整備の中核的な役割を担う機関です。

<sup>2</sup> ADC：抗体薬物複合体（Antibody Drug Conjugate）の略称。強力な細胞傷害活性を持つ薬物が連結されている抗体。ADCは標的を介して細胞内部に取り込まれ、連結している薬物の効果で細胞を殺傷します。

(2) 基盤技術

・国立大学法人東京科学大学との間で、機械学習による抗体創薬に関する共同研究を開始しました。本共同研究は、東京科学大学情報理工学院の大上雅史先生の有する計算科学を用いた解析技術を当社のユニークな抗体ライブラリと組み合わせることで、目当ての抗体を迅速に選び出すことを目的とします。それぞれの強みであるコンピュータ解析と生物学的実験とのシナジー効果によって、機械学習の精度向上及び抗体選抜工程の効率化が期待されます。

2) 抗体研究支援

- VHH 抗体<sup>3</sup> ライブラリを用いた抗体スクリーニング・作製サービスの提供を開始しました。

3) 抗体・試薬販売

- ADC 研究開発用抗体の抗 Exatecan 抗体を発売しました。
- 疾患研究用抗体の抗 GPR87 抗体を発売しました。

2. 業績

項目	進捗状況
売上高	売上高：23,472 千円（前年同期比 12.5%増）
	・抗体研究支援：3,050 千円（前年同期比 228.0%増）
	・抗体・試薬販売：20,422 千円（前年同期比 2.5%増）

以上

<sup>3</sup> VHH 抗体：ラクダ科動物が持つ特殊な抗体分子（重鎖抗体）の可変領域（Variable domain of Heavy chain of Heavy chain antibody）の略称。ヒトなどの抗体とは異なり、単鎖抗体と呼ばれる独特な構造を持っています。サイズが小さいため生産が容易で、熱に対しても高い安定性を持つという特性があります。このため、医薬品・研究用試薬としてだけでなく、フィルターその他の工業製品等で抗原を捕らえる材料として、幅広い用途での活用が期待されています。